第１回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議　議事録

日　時：令和５年７月 27 日（木）
14 時 00 分～15 時 30 分
場　所：富山県防災危機管理センター
B609 会議室

１　挨拶

２　出席者紹介

３　情報提供
（１）インクルーシブひろばの概要について
（２）利用実態調査の結果について（指定管理者　野上緑化）

４　意見交換　※主な意見を抜粋して掲載
●委員実施のアンケート調査結果について
（委員）
実際に障がいのある子の保護者で公園に行けない、まだ行ったことのない方などを対象にアンケート調査を実施した。調査結果を報告。（「公園利用についてのアンケート結果」参照）

●利用促進について
（事務局）
今後行うインクルーシブ DAY（仮称）の実施、ヘルプマーク配布に関する計画案を報告。

（委員）
インクルーシブ DAY の開催やヘルプマーク配布は、公園に行くきっかけになり、配慮が必要なことが一目でわかるので、保護者の悩みに寄り添い、とても良い取り組みだと思う。
ひろばのハード面の改善点としては、日陰となり休憩できる簡易テントの設置が必要だと思う。
インクルーシブという言葉がまだまだ普及していないように感じる。SNS などでよく見かける投稿では、インクルーシブひろば＝小さい子でも遊べるひろばと認識されていることが多い。
インクルーシブ DAY の開催にあたり、昨年に富山市新保小学校で行った出前授業を今後も実施し、より多くの人にインクルーシブの意味を知ってほしい。継続的に出前授業を実施

していくことが大切なのではないか。

（委員）
インクルーシブ DAY をあえて障がいのある子限定で設置する必要があるのか。障がいのある子を持った親は、障がいの無い兄弟も一緒に遊ばせるため、区別なく遊ばせられるような場を作ってほしい。
ヘルプマークについて、自らや子供に付けたくない、オープンにしたくない人もいる。通常のヘルプマークではなく、インクルーシブなデザインのものがあってもいいと思う。

（事務局）
インクルーシブ DAY について、障がいのある子限定のイベントではなく、障がいの有無に関わらずみんなが楽しめるイベントにしたい。ヘルプマークについては、かわいいデザインにすることで、ヘルプマークに抵抗のある人も付けやすいものとしたい。
通常のヘルプマークはカバンなどにつけるもので、遊具で遊ぶ時には引っかかる危険があるためつけられない。今回はこのひろば専用とし、服に張り付けるようなシールタイプがいいのではないかと考えている。

（委員）
障がいのある子を受け入れる環境づくりが大切。そのような社会環境ができていないのが一番の問題。障がいがあるからといって接し方を変えるのではなく、障がいのある子もない子も分け隔てなく関わっていくのがインクルーシブではないか。
教育の一環として、早い段階からインクルーシブの考えを未来を担う子供たちに教育していくことで、子供たち自身が理解し判断できるようになれば良いのではないか。

（委員）
障がいにはいろいろな種類があるが、どんな障がいがあっても公園で遊びたいという気持ちは同じ。公園内のルール整理(遊具の順番待ちなど)を子供同士で行うのはハードルが高い。インクルーシブ DAY では、大人が介入して環境を整備してあげることで、子供たちに楽しかった！また行きたい！と思ってもらえれば利用促進にもつながると思う。
富山から発信された「富山型デイサービス」という良い文化があるが、インクルーシブ DAY などの取り組みをこの広場から、新たに発信し、子供たちの学びの場になれば良いと思う。

（事務局）
インクルーシブ DAY では、大人が子供たちをサポートしていくことで保護者の安心感にもつながり、子供たちの学びの機会にもなればよいと考えている。
また、インクルーシブ DAY の中のルールづくりなどイベントの中身についても今後検討

してまいりたい。
　運営の工夫として、障がいのある子の利用を優先させる時間帯を作る案について、障がいのある子もない子も分け隔てなく関われるインクルーシブの観点からどのように考えるべきか。

（委員）
　時間帯を分けてほしいという意見は重度の障がい（身体、病気）のある子どもを持つ保護者の要望が多い気がする。重い障がいのある子供たちは出かけかけられる場所が少ない。利用時間が調整されていると、公園に行きやすく、出かけられる場所が増えて良いと思う。

（委員）
　ひろばの供用から４ヵ月が経って、子供たちが今どう感じているか知りたい。
　地元の小学生たちは出前授業を受け、インクルーシブについて学び、実際に日常的に公園で遊んでみて、いろいろな思いをもった子供たちがいると思う。
　また、子供たちを公園に連れてくるのは保護者なので、保護者にもインクルーシブに対する理解を深めていくことが大切。

（委員）
　子供はその子に障がいがあるのか、配慮の必要な子なのかどうかということがわからない。そのような意味では子供たちには垣根がないと言える。だからこそ接し方もルールもわからない。今の子たちは、重度の障がいの子と出会う場がないので、どこかで大人が入って伝えてあげないといけない。子供たちに思いやりを持って接しなさいと指導しても難しいところがある。

（委員）
　子どもだけでなく、保護者にもインクルーシブについて啓発を行うなど、インクルーシブひろばについての理解が進むことで、利用促進にもつながると考えられる。
　また、アンケート調査でいろいろな意見があったと思うが、要望や困ったことばかりを発信するのではなく、良かったことなど前向きな意見を発信していくことで楽しい公園ということが周りに伝わる。

（委員）
　インクルーシブ啓発の出前授業を継続して実施いくことが大切ではないか。社会全体にもインクルーシブについて更に普及していくことが大切だと思う。

（事務局）

今日いただいた意見を踏まえ、インクルーシブ DAY など、今後の運営に活かしていきたい。

５　閉会